

## 小学校道徳教科書における家族観

表 真 美  
(教育学科)

小学校道徳教科書における家族観を明らかにすることを目的に、2020年から2023年まで使われていた8社の道徳教科書「家族愛・家庭生活の充実」に該当する教材を対象に、①主人公、②中心に描かれた関係、③同居する家族構成、④父母の職業、⑤家事労働について分析した。その結果、主人公は女兒に比して男児が多く、母子関係が中心であった。ひとり親が明記されている読み物は1件もなく、職業が明らかな教材は多くないものの父親は会社員、母親は看護師など、ステレオタイプな職種が描かれていた。家事労働の描写のうち多くの主体が母親であり、父は極わずかであった。以上、道徳教科書における家族観は固定的であり、道徳と他教科との連携には、課題があることが明らかとなった。

キーワード：道徳教科書、家族、親子、ジェンダー

### 1. 研究の背景と目的

#### (1) 道徳教科書

小学校における「特別の教科 道徳」は平成30(2018)年4月から全面実施された。それまでは、教科書出版社による道徳副読本、文部科学省による「心のノート」「私たちの道徳」「小学校読み物資料」に加え、各自治体による地域の教材等が用いられてきた。2018年より教科書を用いた授業が開始されることとなり、平成29(2017)年、東京書籍、学校図書、教育出版、光村図書出版、日本文教出版、光文書院、学研教育みらい、廣済堂あかつきの8出版社から教科書が発行された。その後、2019年、2023年に2回の改訂を経て、2024年より新教科書が使用されている。

#### (2) 小学校学習指導要領における道徳の位置づけ

総則1の2(2)には「学校における道徳教育は、特別の教科である道徳(以下「道徳科」という。)を要として学校の教育活動全体を通じて行うものであり、道徳科はもとより、各教科、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動のそれぞれの特質に応じて、児童の発達の

段階を考慮して、適切な指導を行うこと。」とある。例えば家庭科の学習指導要領第3指導計画の作成と内容の取扱いには「(7) 第1章総則の第1の2の(2)に示す道徳教育の目標に基づき、道徳科などとの関連を考慮しながら、第3章特別の教科道徳の第2に示す内容について、家庭科の特質に応じて適切な指導をすること。」とある。

#### (3) 小学校学習指導要領における「家族・家庭生活」

平成29年告示の小学校学習指導要領において、「家族」の文言がみられるのは、道徳科、家庭科、外国語科の3教科である。加えて、生活科には、「家庭」の文言が含まれている。

1) 特別な教科道徳における「家族・家庭生活」  
道徳は、A主として自分自身に関すること、B主として人との関わりに関すること、C主として集団や社会との関わりに関すること、D主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関することの4つの内容領域をもつ。Cの内容領域7項目に「家族愛、家庭生活の充実」が含まれる。家族愛、家庭生活の充実」は、第1・2学年「父母、祖父母を敬愛し、進んで家の手伝い

などをして、家族の役に立つこと」、第3学年・4学年「父母、祖父母を敬愛し、家族みんなで協力し合って楽しい家庭をつくること、第5・6学年「父母、祖父母を敬愛し、家族の幸せを求めて、進んで役に立つことをすること」とされている。また、内容領域Bの「感謝」の項目では、第1・2学年「家族など日頃世話になっている人々に感謝すること」、第3・4学年「家族など生活を支えてくれている人々や現在の生活を築いてくれた高齢者に、尊敬と感謝の気持ちをもって接すること」、第5・6学年「日々の生活が家族や過去からの多くの人々の支え合いや助け合いで成り立っていることに感謝し、それに応えること」とされている。

#### 2) 家庭科における「家族・家庭生活」

家庭科の目標(3)は「家庭生活を大切にすることを育み、家族や地域の人々との関わりを考え、家族の一員として、生活をよりよくしようと工夫する実践的な態度を養う。」とある。内容領域の1つであるA「家族・家庭生活」には「自分の成長を自覚し、家庭生活と家族の大切さや家庭生活が家族の協力によって営まれていることに気付くこと」「家庭には、家庭生活を支える仕事があり、互いに協力し分担する必要があることや生活時間の有効な使い方について理解すること。」「家族との触れ合いや団らんの大切さについて理解すること」とされている。

#### 3) 生活科における「家庭」

生活科の目標(1)は「学校、家庭及び地域の生活に関わることを通して、自分と身近な人々、社会及び自然との関わりについて考えることができ、それらのよさやすばらしさ、自分との関わりに気付き、地域に愛着をもち自然を大切にしたり、集団や社会の一員として安全で適切な行動をしたりするようにする。」とある。「学校、家庭及び地域の生活に関する内容」には「(2) 家庭生活に関わる活動を通して、家庭における家族のことや自分のできることなどについて考えることができ、家庭での生活は互いに支え合っていることが分かり、自分の役割を積極的に果たしたり、規則正しく健康に気を付けて生活したりしようとする。」とされている。

#### 4) 外国語における「家族」

外国語は「思考力、判断力、表現力等」のなかの「言語活動に関する事項」に、「友達や家族、学校生活など、身近で簡単な事柄について、簡単な語句や基本的な表現で話される短い会話や説明を、イラストや写真などを参考にしながら聞いて、必要な情報を得る活動。」との文言が含まれている。

以上、すべての教科において道徳教育の指導を行うことが述べられているものの、家族・家庭生活の内容について重複する家庭科と生活科は、道徳科との連携がより重要となる。道徳科では愛情や感謝などの情緒面が強調される一方で、生活科では自分でできることや家族で支え合うこと、家庭科では生活を営むためのかわりや協力が重視されていることがわかる。

#### (4) 先行研究

道徳の教科化が2015年に決定され、全面実施された2018年以降、小学校道徳教科書に関する報告が複数みられ、多くが「道徳教科書は固定的な標準家族像や潜在的カリキュラムを含む」との論考を展開している(笠原2018)。

2社の教科書(1・2年がA社、3～6年がB社)をジェンダーの視点から考察した結果、ステレオタイプの男女像が描かれていた。SDGs目標5の実現に向けた授業の展開が必須である(勝木ほか2020)。4社の教科書を対象に、1)子どもの遊び・スポーツ・習い事、2)子どもの性格・行動、3)親の性格・家庭での行動、4)社会と接点のある大人の属性についての分析を行った結果、いずれについてのジェンダー・ステレオタイプに基づいて誇張的に描写されていた(上森ほか2020)。4社の教科書を対象に分析した結果、1)主人公、登場人物の男女数、写真・挿絵に描かれる男女数においては男性中心主義、2)呼称、衣服・ランドセルには男女二元論、3)両親の登場数、働く大人の数には性別役割分業が表象されていた。女子差別撤廃条約を批准している国として改善に注力すべきである(上森ほか2021)。8社の「家族愛・家族生活の充実」に関わる教材の内容は1)家族の愛情や思いに応えようとする

こと、2) 家族の一員としてのふるまいに気づくこと、3) 家族の愛情に気づくこと、4) 祖父母の恩に応えることの4種のテーマに分類できた。家族の多様性への配慮や家族に報いるための行為とされる家庭の仕事の位置づけなどに課題があることを明らかにした(佐藤2021)。また、8社すべての教科書に収録されている教材「ブラッドレーの請求書」について、①家事労働は母親の役割である、②家事労働は無償である、③家事労働は愛情表現である、という3つのジェンダー・メッセージが含まれていた。道徳科学習指導要領「教材の留意事項」として「児童が問題意識をもって多面的・多角的に考えたり、感動を覚えたりするような充実した教材の開発や活用を行うこと。」とあるが、「母親の愛情への感謝」と男女平等や社会的・家庭的背景への配慮を一つの教材で行うことの難しさを指摘した(木村2019)。

### (5) 研究の目的

道徳科の「家族愛、家庭生活の充実」の内容においては、とくに家庭科と生活科の内容の重複がみられ、教科間の連携が不可欠である。いずれも「家族との協力」を含んでいるが、先行研究では、ジェンダーや家族の多様性についての配慮に課題があることが指摘されていた。

本研究では、8社すべての教科書を分析対象とし、先行研究とは異なる視点で詳細、客観的に分析することにより、道徳教科書の家族観の傾向を明らかにし、今後の教科間の連携に関する基礎資料とすることが目的である。

## 2. 研究方法

### (1) 対象教科書

小学校道徳教科書は、現在、8出版社から各学年、計48種が出版されている。本研究では、2019年に発行され、2020年度から2023年度まで使われていた教科書を対象とした。2023年発行、2024年度から使用されている教科書に新しく加わった教材10件を補助資料とした。

### (2) 対象教科書の採択率

教科書の採択率は、各採択地区の2度目の採択の変更の状況を調査した論文を参考にし

た(田中他2020)。平成30年発行の教科書は、東京書籍・日本文教出版21.3%、光村図書出版17.1%、学研教育みらい14.8%、教育出版8.6%、光文書院8.4%、学校図書5.7%、廣済堂あかつき2.9%であった(平田2019)。各採択地区では採択した教科書の変更があったものの、採択率の採択率の順位に大きな変化は見られなかった(図1)。

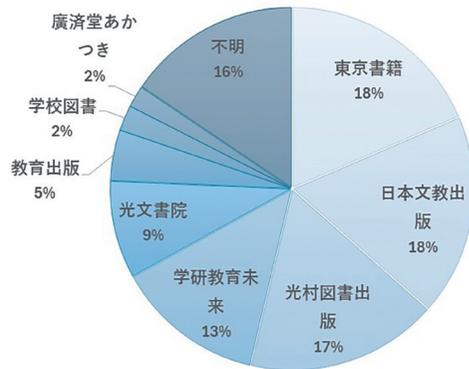


図1 道徳教科書の採択率  
田中他2020 (p.417) より筆者作成

### (3) 対象とした教材

8社の教科書の「家族愛・家庭生活の充実」に該当する教材71件を分析対象とした。表にはタイトルと概要を示した(表1)。

### (4) 2023年改訂による教材の変更

前述のように、道徳教科書は3回目の改訂が行われ、既に2024年4月から新教科書が使用されている。71の対象とした教材のうち10件が異なる教材に差し替えや、削除がみられた(表1「新教科書」で✕の教材)。差し替え、削除は光村図書と光文書院が3件、東京書籍は2件、教育図書と学研教育みらいとが1件、学校図書と廣済堂あかつきは2019年に発行された教科書と同じ教材が使われていた。

新教科書に新しく加わった教材10件についても補助資料とした。

### (5) 対象資料の概要

各教科書の「家族・家庭生活の充実」に該当

小学校道徳教科書における家族観

表1 対象とした教材

出版社	学年	頁	教材名	資料 no.	物語の概況	新教科書
東京書籍	1	62-66	かやねずみのおかあさん	1	かやねずみの母が身を挺して狐から子を守る	×
	2	34-47	だっぺにおにいちゃんだもん	2	母が買い物に行く間、主人公は病気の妹の世話をした	
		123-125	まる子の家族へのしつもん	3	家族への質問	
	3	77-79	耳の間こえないお母さんへ	4	主人公から聴覚障がいの母への手紙	
		118-124	ぼくのおばあちゃん	5	祖母と一緒に習字を習うことが嫌だったけれど、祖母の熱心な姿を見て気持ちが変わった	
	4	104-106	お母さんのせいきゅう書	6	主人公が家事を行い請求書を出す、いつも家事をする母からは0円の請求書を渡された	
110-113		小さなおとうさん	7	妹と一緒に一夜お留守番をした。先生から小さなお父さんと言われ嬉しかった		
5	74-78	卵焼き	8	両親が苦勞してお弁当の卵を用意してくれた		
6	24-28	おばあちゃんのさがしもの	9	同居する母方祖母が認知症になる	×	
学校図書	1	22-23	おてつだいじまん	10	洗濯ものたたみ、妹の世話、ゴミ出しなどのおてつだいじまん	
	2	62-64	お母さんの手	11	母の手を握ったら冷たく荒れていたのが明日は手伝おうと思う	
		96-97	コアラのココちゃん	12	妹優先で不満だったが、妹の世話をして父親に褒められた	
	3	16-17	ブラッドレーのせいきゅう書	13	主人公が家事を行い請求書を出す、いつも家事をする母からは0円の請求書を渡された	
		112-116	たんじょう会のおにぎり	14	祖母が誕生会におにぎりを作ってくれたが誰も食べなかった	
	4	12-15	ベッドの上の花ぶき	15	入院する祖母に桜の花びらをもっていって	
5	130-133	みそしるる自転車	16	遠くに住む祖母が自宅に泊まりに来て、祖父が修繕、祖母が食事準備をしてくれた		
6	82-85	ペルワラ	17	父が入院、家事分担に不満を言う主人公に母が「感謝」する		
教育出版	1	28-31	おじいちゃんだいすき	19	入院した祖父と文通を行う	
	2	78-82	おむかえ	20	震災の際、姉がお迎えに来てくれた	
		83-85	ぼくもかんばるよ	21	母が忙しい中少しだけドッジボール大会を見に来てくれた	
	3	42-45	わたしの妹、かな	22	何でもやられたる妹を不満に思ったが、祖母に言われ仲直りした	
	4	84-87	ブラッドレーのせいきゅう書	23	主人公が家事を行い請求書を出す、いつも家事をする母からは0円の請求書を渡された	
		88-91	お父さんのラーメンがいちばん	24	仕事が忙しく家族で夕飯を食べられないが、父が祖父の店を継いだ理由を理解する	
5	98-101	わたしにできることを	25	認知症の祖父について母に説明を受け、祖父を気遣う		
6	150-153	この空は遠い日本とつながっている-和田重次郎	26	父の死亡後、身を粉にして働き自分は食べなくても主人公に食事を作った母を幸せにしたくて努力した		
6	110-115	なまをぐれば、再びの力を得よう-野口英世とシシカの物語	27	主人公苦勞して学校に行かせてくれた母に感謝し親孝行する	×	
光村図書	1	32-34	かぞくとおはなし	28	家族とどんなお話をしているのかな(動物親子の挿絵)	
	2	100-103	これならできる	29	祖母が夕食を作りに来てくれて、それを手伝った	
		44-47	ぼくのサッカーシューズ	30	急にサッカー大会に行けなかった父が、シューズを磨いてくれた	×
	3	124-128	もうすぐお正月	31	祖父と一緒に大掃除をする	
		100-103	百六さい、おめでと、ひいおばあちゃん	32	曾祖母に長生きしてもらいたいと思う	×
	4	159-170	漢字に思いをこめて	33	家族への思いを漢字1字に込める	
5	108-110	弟のふる入れ	34	主人公は弟をふるに入れる役割を継続している	×	
6	174-177	ブラッドレーのせいきゅう書	35	主人公が家事を行い請求書を出す、いつも家事をする母からは0円の請求書を渡された		
7	138-141	祖母のりんご	36	祖母は認知症だが、主人公が熱を出した際気遣ってくれた		
8	122-126	ぼくの名前呼んで	37	父母が聴覚障害の主人公が、両親の思いを知る		
日本文教出版	1	96-99	おかあさんのつくったぼうし	38	母の削った帽子が大切なので、王の金の冠とも取り換えなかった	×
	2	92-95	おばあちゃんお元気ですか	39	祖母と主人公の手紙、電話、メールによる交流	
		98-103	お母さんのせいきゅう書	40	主人公が家事を行い請求書を出す、いつも家事をする母からは0円の請求書を渡された	
	3	66-69	家族の一員として	41	祖父の家に預けられ家事分担が大変だが、祖母の優しい言葉に納得した	
		110-113	家族のために	42	家の仕事を家族で分担、父もだんだん洗濯物干しがうまくなってきた	
	4	66-71	初めてのアンカー	43	仕事で運動会に来れない父への思い	
5	112-115	ぎんこのしずく	44	一番いい母親にぎんこのしずくを落とそうとした星はどの母親にもぎんこのしずくを落とさず		
6	140-141	ぼくにもたせて	45	祖父と共に買い物に行き主人公が荷物をもつ	×	
光文書院	1	30-31	げんかんそうじ	46	親せきが来る日に主人公が玄関の掃除をする	
	2	64-65	わたしのおじいさん、おばあさん	47	祖父母を皆に紹介する	
		28-31	清作のおてつだい	48	手が不自由で母を手伝うことができず、その代わりに勉強した	×
	3	110-113	お母さん、かぜでねこむ	49	母が病気で寝込み、母に迷惑をかけていたと気づき反省する	
		32-33	お母さんのせいきゅう書	50	主人公が家事を行い請求書を出す、いつも家事をする母からは0円の請求書を渡された	
	4	138-141	ぼくの生まれた日	51	タイムマシンで生まれた日に行く、父母が主人公の将来を楽しみにしていた	
5	88-91	家族の紹介	52	イギリス人の先生は自分の家族のことをよく知っていたが、自分は紹介できるだろうか		
6	44-47	かっこいいお父さん	53	父が忘れたお弁当を、父の職場に持って行った	×	
学研教育みらい	1	108-111	サバナナの子ども	54	アフリカの子どもの日常	
	2	44-47	おふろプール	55	母とプールに行く約束をしていたが行けなくなり一緒にお風呂に入った	
		90-93	一まいの銀貨	56	買い物で渡された銀貨を失くしたが母が優しくもう一枚の銀貨をくれた	
	3	14-15	お母さんのせいきゅう書	57	主人公が家事を行い請求書を出す、いつも家事をする母からは0円の請求書を渡された	
		24-26	ぼくがいるよ	58	病気で味がわからなくなった母と一緒に食事作りをする	
	4	84-88	はじめてのアンカー	59	仕事で運動会に来れない父への思い	
廣済堂あかつき	1	48-49	大すきなかぞく	60	どんな時に家族に大切にされていると感じるか	
	2	50-52	ぼくのおとうさん	61	母に「うるさい」と言って父にしかられた	
		44-46	おばあちゃんのおふろ	62	動けなくなった祖母を父母と共にお風呂に入れる	
	3	104-107	きつねとどう	63	母狐は子どもを守るために猟師に撃たれてしまう	
		51-53	ぼくがいるよ	64	病気で味がわからなくなった母と一緒に食事作りをする	
	4	70-72	ブラッドレーのせいきゅう書	65	主人公が家事を行い請求書を出す、いつも家事をする母からは0円の請求書を渡された	
5	82-84	妙見山のちかい-岩崎弥太郎-	66	江戸で勉強するために母が山を売りお金を持たせてくれた		
6	97-101	ぼくの生まれた日	67	タイムマシンで生まれた日に行く、父母が主人公の将来を楽しみにしていた		
7	71-75	ぼくの名前よんで	68	父母が聴覚障害の主人公が両親の思いを知る		
8	130-133	ごめんね、おばあちゃん	69	祖母が弱ってきて失敗ばかりして不満だが、入院し反省する		
9	53-57	三六五×四回分のありがと	70	重い心臓病の14歳の主人公が母にこれまで育ててくれた感謝を綴った手紙		
10	74-77	はじめてのアンカー	71	仕事で運動会に来れない父への思い		

する教材の占有頁数は22から44頁であり、教科書により差があった。71件中65件が物語を読んで考えたり話し合ったりする、いわゆる「読み物資料」であった。

71の教材のうち、先行文献でも取り上げられた「ブラッドレーのせいきゅう書」（お母さんのせいきゅう書）は8社すべてにおいて3年生か4年生の教材として採用されていた。父が仕事で運動会に来れないことを描く「はじめてのアンカー」は3出版社（日本文教出版、学研教育みらい、廣済堂あかつき）の6年生教材として採用されていた。また、タイムマシンで主人公の生まれた日に行き父母の様子をみる「ぼくが生まれた日」は2社（光文書院、廣済堂あかつき）の4年生の教材、「ぼくがいるよ」は、学研教育みらいは5年生、廣済堂あかつきは3年生の教材であった。

#### (5) 分析の視点

各教材における①主人公、②中心に描かれた関係、③同居する家族構成、④父母の職業、⑤家事について分析した。

### 3. 研究結果

#### (1) 主人公

71件の教材の主人公について、多種の動物の家族の挿絵を用いた教材（資料66）のみ、主人公が不明であった。また、特定の人物を扱った読み物が5件含まれていた（ダウン症の金澤翔子さん（資料18）、探検家和田重次郎（資料26）、野口英世（資料27・48）、岩崎弥太郎（資料66）、難病の柳橋佐江子さん（資料70）。著名なアニメの登場人物が4件含まれていた（ちびまる子ちゃん（資料3・49）、のび太（資料51・67））。

かやねずみの母（資料1）、3人の母（資料44）、性別不明の狐の子（資料63）、読み物ではない4件（資料9・33・47・60）以外は、当該学年の年齢の子どもであった。

そのうち男児37件・女児25件であり、男児が女児を上回った。

#### (2) 中心に描かれた関係

特定の家族員ではなく、家族全員に関心が

向けられ、中心に描かれる関係がないものが、読み物以外の教材を中心に6件見られた（資料3・9・28・33・52・66）。

上記以外は特定の関係が見られ、母子関係が33件で他を引き離して多かった。次いで父子関係10件、祖母孫関係9件、祖父母孫関係4件、父母と子の関係3件、姉妹、兄弟、祖父孫、曾祖母ひ孫関係各1件であった。

母子関係では、特に、動物が主人公の読み物（母親が身を挺してわが子を守る：資料1かやねずみのおかあさん・63きつねとぶどう）、偉人の伝記（資料26和田重次郎・27野口英世・48野口英世・66岩崎弥太郎において、母親の自己犠牲による無償の愛が描かれていた。

#### (3) 同居する家族構成

同居する家族構成が明確であった教材は、写真・挿絵と文章からの判断（資料8・54・58・60・64）も含め、20件であった。

ひとり親が明確な教材は、動物が主人公である2件のみであった（資料1かやねずみのおかあさん、63きつねとぶどう）。

父母ときょうだい2人の4人家族が7件（資料16・17・41・42・43・59・71）、父母ときょうだい5人の7人家族が1件（資料54サバナナの子ども）、父母と主人公の3人家族が4件（資料37・58・64・68）で、核家族は12件であった。

拡大家族6件のうち、祖母・父母・きょうだいが3件（資料8・15・22）、祖父母・父母・きょうだい2件（資料3・60）、曾祖母・祖父母・父母・きょうだいが1件（資料32）であった。

#### (4) 父母の職業

父または母の職業や、外で働いていることが明記されていた教材は19件であった。

そのうち、父は14件、母は12件であった。母が無業であることを明記する教材はなかったが、それを想起させる場面は複数見られた。

父の職業は、会社員3件（資料7・15・17）、漁師3件（資料43・59・71：同一教材）、山仕事（資料8）、新聞記者（資料16）、ラーメン屋（資料24）、家電量販店の社員（資料53）、靴直し（資料56）各1件、「仕事」との

小学校道徳教科書における家族観

表2 分析結果一覧

資料 no.	登場人物 (主人公以外)	主人公	中心に描かれた関	同居する家族構成 (主人公を除く)	父母の職業	家事
1	5匹のかやねずみの子	母	母子	母 子5匹		
2	母 兄 妹	男児	母子			買い物 (母) 妹の世話 (主人公)
3	祖父母 父母 姉	ちびまる子		祖父母 父母 姉		
4	母	女兒	母子			
5	母 祖母 医者	男児	祖母孫			
6	母	男児	母子			看病 (母) お使い・掃除・留守番 (主人公)
7	母 妹 妹の担任	男児	母子		会社 (父) 仕事 (母)	妹の世話 (主人公)
8	母 父	女兒	母子		山仕事 (父)	お弁当作り (母)
8	祖母 母	女兒	祖母孫	祖母 父母 兄妹 (挿絵)		
9		男女児				洗濯ものをたたむ(男児)妹の世話(男児)ゴミ出し(祖母)
11	母	男児	母子		看護師 (母)	洗濯物の取り込み・食事作り (母)
12	父 母 妹	女兒	父子			育児 (父)
13	母	男児	母子			掃除・看病 (母) お使い・掃除・留守番 (主人公)
14	祖母 母	男児	祖母孫			誕生会のごちそうづくり (母) おにぎりづくり (祖母)
15	祖母	女兒	祖母孫	祖母 父母 妹	会社 (父) つとめ (母)	
16	母 祖父母 父 兄	女兒	祖父母孫	父母 兄	看護師 (母) 新聞記者 (父)	買い物 (母) 料理 (祖母) (母の手作り料理が食べたい。)
17	母 弟 父	女兒	母子	父母 弟	図書館 (母) 会社 (父)	保育園お遊べ・食事の買い物 (主人公)
18	母	金澤翔子さん	母子			
19	母 祖父	女兒	祖父孫			
20	母 姉 兄 友達と友達	女兒	姉妹			おにぎりづくり (母 姉)
21	母	男児	母子		看護師 (母)	さらあらい (主人公)
22	妹 父母 祖母	女兒	母子妹	祖母 父母 妹		料理 (母) 料理運び (主人公・妹) 洗濯物たたみ (妹)
23	母	男児	母子			料理 (母; 挿絵) お使い・掃除・留守番 (主人公)
24	父母	女兒	父子		ラーメン屋 (父母)	夕飯づくり (母)
25	祖父 父母	女兒	祖父孫			
26	母 新聞記者	和田重次郎	母子		和裁 (母)	食事作り (母)
27	母	野口英世	母子		農業エビトリ(母)(父は働かずかけこ)	
28	動物の親子					
29	祖母 母	女兒	祖母孫		仕事 (父 母)	食事作り (祖母) 食事前のテーブルの準備 (主人公)
30	父 母	男児	父子		仕事 (父)	
31	祖父母 同級生	男児	祖父母孫			
32	曾祖母	女兒	曾祖母ひ孫	曾祖母 祖父母 父母姉2人		
33	祖父母 弟 父母	男女児				
34	弟	男児	兄弟			弟の世話 (主人公)
35	母	男児	母子			お使い・留守番 (主人公) 育児・看病・部屋の掃除 (母)
36	祖母 父	女兒	祖母孫			
37	父 母	男児	父子	父母		
38	王女 王 母	男児	母子			主人公の帽子づくり (母)
39	祖母	男児	祖母孫			
40	母	男児	母子			看病・食事作り (母) お使い・掃除 (主人公)
41	祖父母	男児	祖父母孫	父母 赤ちゃん		食事作り・布団をたたむ (主人公)
42	母 父	女兒	母子	父母 兄	仕事 (父 母)	風呂掃除(兄)洗濯物を取り込むj(主人公)食事作り(母)洗濯物干し(父)
43	友達 父母 弟 祖母	女兒	父子	父母 弟	漁師 (父)	家の手伝い (主人公)
44	3組の母子	母	母子			
45	祖父	男児	祖父孫			買い物 (主人公・祖父)
46	父母	男児	父子			掃除 (主人公)
47	祖父母	男女児	祖父母孫			
48	母	野口英世	母子		農業 (母)	
49	母 父 姉	女兒(まる子)	母子			食事作り (祖母・姉) 買い物 (主人公) 血洗い (主人公・姉)
50	母	男児	母子			お使い・弟の世話 (主人公) 看病・掃除 (母)
51	母 父 ドラえもん	男児(のび太)	父子			
52	外国人教師	男児				
53	友人 父 母	女兒	父子		家電量販店 (父)	父のお弁当作り (母)
54	父母 姉・妹 (2人)	男児	母子	父母 姉・妹 (2人)		水汲み (姉・主人公) 牛の世話 (主人公) 茶を入れる (母)
55	母 近所の人	男児	母子			洗濯物入れ・お風呂準備 (主人公)
56	母 父	男児	母子		靴直し (父)	買い物 (主人公)
57	母	男児	母子			お使い・掃除・留守番 (主人公) 看病・洗濯 (母)
58	母 父	男児	母子	父 母 (挿絵)		食事作り (母・主人公)
59	友人 父母 弟 祖母	女兒	父子	父母 弟	漁師 (父)	家の手伝い (主人公)
60		男女児		祖父母 父母 兄妹弟(写真)		
61	父 母	男児	父子			
62	祖母 父母	女兒	祖母孫			祖母の介護 (父母 主人公)
63	母狐 獵師 犬	狐の子	母子	母		
64	母 父	男児	母子	父 母 (挿絵)		食事作り (母・主人公)
65	母	男児	母子			お使い・掃除・留守番 (主人公) 看病 (母)
66	母 父	岩崎弥太郎	父子			
67	母 父 ドラえもん	男児(のび太)	父子			
68	父	男児	父子	父母		
69	祖母 友人 妹 父	男児	祖母孫			ご飯を盛る (祖母)
70	母	柳橋佐江子さん	母子			
71	友人 父母 弟 祖母	女兒	父子	父母 弟	漁師 (父)	家の手伝い (主人公)

み書かれたもの3件(29・30・42)であった。

母の職業は、看護師3件(資料11・16・21)、農業2件(資料27・48:野口英世の母)、和裁1件(資料26:和田重次郎の母)、ラーメン屋(資料24)、図書館1件(資料17)、「仕事」とのみ書かれたもの3件(7・29・42)、「つとめ」とかかれたもの1件(資料15)であった。

(5) 家事

家事を行うことが描写された教材は41件であった。そのうちの23件は母親が家事を行う場面が描かれており、父親の3件と大きな開きがあった。祖母は6件であった。家事の内容を表2に示した。母親の家事は、看護、介護などのケア労働(資料6・13・35・40・50・62・57・65)の他に、ごちそうづくり、お弁当、おにぎりも含めて食事作りが多かった(資料8・11・14・16・20・22・23・24・26・40・41・42・53・58・64)。

共働きが明記されている教材に、主たる家事の運営が母親であることが描かれていた(資料16, 42)。

(6) 新教材の概要

2023年改訂時に、2019年発行の教科書から差し替えられた教材、削除された教材、加わった教材があった(表3)。新しく加わった教材は11件だった(2019年発行の他の教科書に掲載されていた教材1件を含む)。

表3 変更になった教材

出版社	学年	旧教材(2020-2023)	新教材(2024-)	資料No
東京書籍	1	かやねずみのおかあさん	どうぶつのかぞく	72
	6	おばあちゃんのさがしもの	ぼくの名前呼んで(資料37)	
教育出版	1		おるすばん	73
	3		おにのかんたのゆめあんない	74
	6	野口英世と母シカの物語	雨上がりの朝に	75
	6		両親からの手紙	76
光村図書	2	ぼくのサッカーシューズ	(削除)	
	3	百六さい、おめでどう、ひいおばあちゃん	(削除)	
	4	弟のふる入れ	(削除)	
	1	おかあさんのつくったぼうし	ルンルンルン	77
光文書院	1	ぼくにもたせて	いっしょにするよ	78
	2	わたしのおじいさん、おばあさん	あかりをかこんで	79
	6	かっこいいお父さん	お父さんの横顔	80
	6		きいちゃん	81

2023年発行の教科書に新しく加わった教材10件の概要を以下に述べる。

① どうぶつのかぞく(資料72)

(写真を見ながら)動物のお父さん、お母さん、動物の子どもたちの気持ちを考えさせる。

② るすばん(資料73)

母が急に出かけて妹と一緒に留守番をした。父が帰りほめられて嬉しかった。

③ おにのかんたのゆめあんない(資料74)

母と二人暮らしの主人公が夢の中でおにたに他の家族を見に連れて行ってもらい、自分の家族も良い家族だと気づく。

④ 雨上がりの朝に(資料75)

母が感染症患者を受け入れる病院で働いていることを友人に隠していた主人公であるが、母の思いをきいて母を誇らしく思った。

⑤ 両親からの手紙(資料76)

共働きで忙しい両親が誕生日を忘れていてのではないかと心配した主人公だが、両親は誕生日を覚えていて、心を込めた手紙をくれた。

⑥ ルンルンルン(資料77)

母が晩御飯の支度をし、帰宅した父も手伝っていた。主人公は母が取り入れたたくさんの洗濯物をたたみ、翌日たたんだ服を着て嬉しくなった。

⑦ いっしょにするよ(資料78)

赤ちゃんを産んで家に帰った母と父が夜中に赤ちゃんの世話をしていた。両親が眠いと思ひ弟と一緒に家事を手伝った。

⑧ あかりをかこんで(資料79)

家族で停電訓練をした。自分でできることを考えた。

⑨ お父さんの横顔(資料80)

交通事故に遭い入院した祖父を気遣い、父が毎週末見舞いに行く。ある日主人公が父に同行し、父母を大切にす父の姿を見た。

⑩ きいちゃん(資料81)

手足の不自由な主人公は姉の結婚祝いに浴衣を縫い、姉は結婚式にその浴衣を着た。そのことで主人公の家族への思いが変わった。

4. 考察

主人公は男児が女児の1.5倍であった。教材名自体に「ぼくのおばあちゃん」「ぼくもがん

ばるよ」「ぼくのサッカーシューズ」「ぼくの名前よんで」「ぼくにもたせて」「ぼくの生まれた日」「ぼくのお父さん」「ぼくがいるよ」と「わたし」3件に比して「ぼく」が8件登場していた。先行研究が追随された。

中心に描かれた関係は、母子関係が圧倒的多数であった。先行研究で明らかにされた一部の教科書、教材だけでなく全体的に、男女の偏り、献身的な母の愛（家族愛）、その愛に報いるべきとのメッセージを発信していると言える。とくに動物が主人公の童話「きつねとぶどう」（資料63）や「かやねずみのおかあさん」（資料1）、和田重太郎（資料26）、野口英世（資料27）の逸話では、自身を犠牲にして子に尽くす母が描かれていた。ひとり親の子どもの貧困が拡大する現在、家族がうちに閉じて孤立することなく、互いに助け合うことや公的支援、共助・公助が不可欠である。子どもたちが間違っただけのメッセージを受け取らないか、懸念される。

同居する家族が明確な教材は多くなかったものの（20件）、父母と子どもの核家族が6割、拡大家族はその半数の3割、ひとり親は先に示した「かやねずみ」と「きつね」の動物の母親だけであり、ひとり親家族は含まれていないと言ってよい。「家族愛・家庭生活の充実」に該当する教材のなかには、多様な家族を肯定的にとらえ、これからのダイバーシティ社会に対応する教材が含まれていないことが明らかとなった。

また、先行研究では詳細に分析されたことのない父母の職業は、明確な記述は少ないものの、母は看護師（資料11・21）、父は会社員（資料7・15・53）とステレオタイプな職種であった。さらに、父の家事労働は3件（資料12・42・62）、母が家事をする描写が圧倒的多数であり、子どもとの日中の接点も多いことから、無職や非正規雇用の設定も想像できる。改訂を経てもなお、先行研究で指摘されたような固定的標準家族像（笠原2019）が描かれていると言える。母親の家事の内容が多かったのは、圧倒的に食事作りであった。父が新聞記者、母が看護師の共働き家族において、主人公が「今

日もスーパーのおかずか。たまにはおかあさんの手作り料理が食べたいなあ。」（下線は筆者による。）と述べる場面が描かれ、母親の食事作りを自明とし、食事作り＝愛情と捉えかねない表現が見られた（資料16：p.131）。2021年の社会生活基本調査では、妻の家事関連時間の平均が7時間28分に対し夫は1時間54分と大きな開きがあった。妻有職・無職の別だと妻の家事関連平均時間は低くなるが、夫は変化がない。家事関連時間の中でもっとも長いのは食事の管理時間である（総務庁2022）。フランスの社会学者デボラ＝ラプトンは『食べることの社会学』の中で「女性が多く家事に加えて食事の準備もしなければならなかった結果、社会参加が阻まれてきた」と述べている（Lupton. D1999）。欧米諸国と比較して日本の女性の地位が低いことは、女性の手作り料理は愛情表現といった社会の風潮と、それをうけて毎日の食をととのえなければならないという女性自身の気持ちが一端を担っていると言っても過言ではない。このような教材は、ジェンダー平等教育に逆行する隠れたカリキュラムと言えよう。

新教科書に新しく加わった教材10件については、幾分、家族の多様性やジェンダー・ステレオタイプに配慮したと推察できる教材が含まれていた。例えば、これまでの教材には見られなかったひとり親家族が登場した（資料74）<sup>1)</sup>。資料76は忙しい共働きの両親、資料78には新生児の夜中の世話を、父も起きて行っている姿が描かれている。また、感染症患者を受け入れる病院の看護師として働く母にかわり父が夕飯を作る（資料75）、「おとうさんがばんごはんのしたくをてつだっているのがみえた。」（資料77：p.77）など、主たる家事の担い手は母であることが推察できるものの、父も夕食づくりに参加する描写が見られた。今後、改訂ごとに課題が解決されることが望まれる。

今回は、挿絵や写真の詳細な分析は行わなかったが、挿絵や写真から子どもが大きなメッセージを受け取る可能性がある。その1例を示す。病気で味を感じなくなった母親と主人公と一緒に調理をする「ぼくがいるよ」（資料58・

64) は、2社の教科書にみられる教材であるが、各社で挿絵に異なる扱いがみられた(図2)。1社は、主人公と母親だけでなく、父親も一緒に家事をする場面が描かれている。この教材は児童の作文の引用であり、本文中の「お父さんときどき加わった。」との文章が挿絵にされたものである。挿絵により父親の家事が強調される印象があり、このように、既存の教材を使用しながらも、有効な手立てにより、目的に沿った授業の展開が可能になると考えられる。



図2 家事労働挿絵

上図：学研教育未来5年 (p.26)

下図：廣済堂あかつき3年 (p.52)

## 5. 研究のまとめと今後の課題

小学校道徳教科書における家族観を明らかにすることを目的に、2020年から23年まで使われていた8社の道徳教科書「家族愛・家庭生活の充実」に該当する教材71件を対象に、①主人公、②中心に描かれた関係、③同居する家族

構成、④父母の職業、⑤家事について分析した。その結果、主人公は女兒に比して男児が1.5倍であり、母子関係が中心で、母親の献身的な愛が描かれていた。ひとり親が明記されている教材はなかった。職業が明らかな教材は多くないものの、父親は会社員、母親は看護師など、ステレオタイプな職種が描かれていた。家事労働の描写のうち多数の主体が母親であり、父は極わずかであった。生活科や家庭科など他教科間の連携には、課題があることが明らかとなった。

今後は、2024年度から使用されている教科書を対象として、挿絵や写真を含めて分析を行いたい。また、家庭科のA家族・家庭生活領域において、道徳科の「家族愛・家庭生活の充実」と連携した効果的な授業を構築したい。

## 注

- 1) 資料74では、多様な家族が描かれているものの、ひとり親家族にいる主人公の女兒は「わたしの家にもぎやかになったらいいなあ。」(p.98) と思い、最後には「わたしはお母さんと二人だけど、とても良い家族だな。」(p.102) と気づく。これらの描写からは、価値の押し付けがあることが否めない。

## 文献

- 笠原昭男 (2018) 「道徳教科書に見る家族像」人間と教育98, 60-68
- 上森さくらほか (2020) 「小学校道徳教科書のジェンダー視点からの分析 (1)」金沢大学人間社会学域学校教育学類附属教育実践支援センター教育実践研究 (46), 53-61
- 上森さくらほか (2021) 「小学校道徳教科書のジェンダー視点からの分析 (2)」金沢大学人間社会学域学校教育学系紀要 (13)
- 勝木洋子ほか (2020) 「教科の中の隠れたカリキュラム：ジェンダー平等の視点から見た道徳教科書の分析」神戸親和女子大学教職課程・実習支援センター研究年報 (3), 23-34
- 佐藤裕紀子 (2021) 「『特別の教科 道徳』と連携した小学校家庭科の指導上の留意点ー「家族愛、家庭生活の充実」の教材分析を通してー」日本家庭科教育学会誌63 (4), 191-201, 2021
- 木村和美 (2019) 「道徳教科書にみるジェンダー・メッセージ教材「ブラッドレーのせいきゅう書」に着目してー」広島修大論集60 (2), 57-69
- 平田繁 (2019) 「小学校道徳教科書における指導

- 内容取扱数」中村学園大学発達支援センター研究紀要（10），93-101
- 田中真秀，佐久間邦友，藤井瞳（2020）「小学校における「特別の教科 道徳」の教科書採択実態の傾向比較—2度の教科書採択から見える採択「教科書」の変更に着目して」川崎医療福祉学会誌，29（2）415-422
- 総務庁（2022）「我が国における家事関連時間の男女の差～生活時間からみたジェンダーギャップ～」統計 Today，190，2-4
- Lupton.D 原著（1999）『FOOD, THE BODY AND THE SELF 1st Edition』1996年，無藤隆・

佐藤恵理子訳，1999『食べることの社会学〈食・身体・自己〉』新曜社

### 謝辞／付記

本研究の調査には山根有希世氏の協力を得ました。ここに深く感謝いたします。

本研究は2021年10月9日開催の第41回（一社）日本家政学会家族関係学セミナーにて口頭発表を行った。